

メープルレター（64）

暑中見舞い

暑中お見舞い申し上げます。モントリオールは、今年は雨が多く、その合間に猛暑が時々、快晴が時々とメリハリのない夏を送っています。このまま8月に入り、すぐに晩夏になってしまうのかもしれませんが。ひと昔前の、梢の葉が照りつける太陽に白い腹を出していた、湿気のないからっとした暑さの夏が、懐かしく思い出されます。

我が家に猫とミニ亀が出戻り、義理の長男は灼熱のポルトガルにバカンスに出かけていきました。スペインは45度なのでスキップしたと言っていました。ポルトガルもどんなに頑張っても35度よりは下がらないようです。

「灼熱のポルトガルより隣の木陰よね。コロナと人混みと灼熱、あー疲れそう。」

マダム田中は、出戻りを指折り数えていたとしか思えない、なついてくつろいだ猫を撫でながら、ドリトル先生に語りかけるのでした。

ドリトル先生は、修理に追われていた船がやっとマリーナの棧橋につけられ、水に浮かぶようになり（冬の間は湖が凍結するため、船は陸にあげられます）少しだけ夏の気分を船で味わっているようです。今年の夏は、船だけではなく、洗浄機も壊れ、台所の流しもつまり、杖をついては、マダム田中は、修理の采配に追われていました。もっとも壊れの激しいマダム田中は、今年の夏は、船はアウト。マリーナまで行くだけで膝が痛み、船によじ登るところか降りることもできないだろうと、ため息が出るばかりです。

マダム田中のリハビリは続いております。自宅訪問リハビリの天使のサンドラに別れを告げ、7月からリハビリ機器や装置の揃ったリハビリセンターに週二回通っています。サンドラが病院のカルテなど必要書類を転送し、手配してくれました。マダム田中は人との巡りあいにはとても恵まれているようです。

このリハビリセンターは、介護施設、老人ホームやデイケアセンターなどから成り立つ州政府の医療施設の建物の地下にあります。300円払うと施設手配のタクシーが往復送り迎えをしてくれます。到着5分前にタクシーのトレースがスマホに送られてきて、状況を知らせてくれます。とまあ、素晴らしいシステムなのですが、現実には、タクシーが遅れて到着し、リハビリが半分になってしまったり、工事で迂回を余儀なくされ遅れたり、とんでもない所に連れていかれたり、毎回、ひやひやしています。リハビリは45分。適度な（と言っても、拷問の如くとても痛いのですが。終わった後や翌日は更に痛く、90%の人が放棄してしまうようです。）エクササイズで肩と膝のリハビリをしています。担当は、のっぽで赤毛のレノーという男性の理学療法士です。最初は、状況調査です。

「家でもするから宿題を出してほしいのです。」

レノーの手の動きが止まり、眼孔が開き、口があぐり。宇宙人に会ったかのような様子。返事はなく、宿題もないままでした。ドリトル先生は、笑い転げ、

「リハビリに来るだけでも精一杯で、宿題なんていう人はいないよ、ここは。」

「サンドラはいっぱい出していったけど。」

「それは例外。」

「だって、グルメの食事の招待も、木陰のランチも、レストランのフルコースも全部断って、ひたすらリハビリを頑張っているんだから。進歩がないと。。。論理的に考えても、週二回のリハビリで体の機能の十分な回復が図れるとは思えないわ。」

「ここは、ケベック。リラックス。リラックス。」

3週間が過ぎ、レノーの信用を得たのか、4ページほどの宿題が渡され、リハビリセンターに行かない時は、家で宿題のエクササイズができるようになりました。それにしても、痛いエクササイズです。そうそう、ドリトル先生に、

「（トウモロコシのように赤毛（欧米ではこう表現します）のレノーが担当よ。優しいけど厳しいわ。」

と伝えると、

「赤毛か、欧米って赤毛って損なんだよね。赤毛にソバカス。不吉というか、嫁の貰い手もなく、嫁の来てもないって言われるくらいだから。魔女だなんていわれることもあるし。」

「それはないでしょう。嫌な風習ね。それなりに綺麗な気がするけど。」

そういわれてみると、赤毛のアンも赤毛で損をしていたような記憶があります。

この建物に住んでいる人たちは、人生の最後を送る人達や病人が多いせいなのか、建物全体に魂の存在が感じられないような気がします。病院の清潔感や走り回る看護婦さんや、泣きわめく赤んぼうの声が聞こえません。世話係も従業員も優しく、マナーも良いのですが、老いを生きる難しさを身に染みて感じます。まとわりつく出戻り猫の存在が懐かしく感じられる瞬間です。

今、モントリオールでは、3年ほど途絶えていた花火大会が再開し、大盤振る舞いの花火が、週二回、夜空を飾っています。カルチエ橋は花火見物客ように封鎖され、人混みで埋まっています。花火が良く見えるカジノに続く道路には車が数珠繋がりになり、のろのろと進んでいます（道路なので止まってはいけません）。マダム田中は、窓からちょっとだけ頭を出し、夜空の花火を楽しんでおります。